

緩和ケアの ちょっと タメになる話

Vol.4

第4回のテーマはこちら

「会えば会うほど好きになる!？」

～またの名を単純接触効果(ザイアンス効果)～

人が誰かに好印象を持つとき、どのような心の動きがあるかご存知ですか？
例えば異性を好きになる場合、一目惚れということももちろんあるでしょうが
何度も顔を合わすうちに少しずつ惹かれていくなってしまうこともあるかと思えます。
この**何度も顔を合わすという行動が相手の親近感を高め、結果として印象が上がります。**
つまり、会えば会うほど好きになる。これを**単純接触効果**といいます。

恋愛話で例えましたが、医療現場ではどうでしょうか？
患者との関係づくりを進める際、どのような働きかけをしていますか？
きっとそれぞれが得意な方法で患者との関係性を構築していることかと思えます。
その方法の一つとして単純接触効果を意識してみたいかがでしょう。

病棟看護師にとって患者のもとを訪れる機会は様々です。
おそらく最も多いのは処置やケアをするために訪室することではないでしょうか。
もちろん処置やケアのための訪室でも単純接触効果は発揮されます。しかし、十分ではありません。
というのも**処置やケアのための訪室ばかりだと患者には”医療者”としての訪室であると捉えられます。**
医療者だから当たり前だと思うかもしれませんが信頼関係というのは**「医療者 対 患者」ではなく
「個人 対 個人」で培うもの**です。特に**子ども相手だと医療のための訪室以外の訪室が関係づくりに重要**
であるという研究結果もあります。
多忙な病棟勤務ですが、**ほんの数秒でもいいので**医療ケア以外で患者のもとを訪れる時間を
意識して作ってみてはいかがでしょう？子どもの心をグッとつかめるかもしれません。
ちなみに患者のもとに長くいるよりも
短時間でも多くの回数会いに行くほうが好感度があがります。



子どもとの信頼関係ができると自然と親との信頼関係も築けます。
「将を射んと欲すればまず馬を射よ」とはよく言ったもので子どもと一生懸命に向き合うことで
親の信頼を得ることもできるのでよりよい医療の提供につながります。

腹黒ナースマン